

✈ 多様な学習支援・環境の充実

ラーニング・コモンズ

国内最大級の規模を誇る自学自習空間「ラーニング・コモンズ」は、様々なグループ学習を行うことができるとともに、日本人学生・外国人留学生在が共同プロジェクトを行うなど幅広い活動が広がる空間で、約 3,000 名／日が利用しています。中でも多文化交流の接点となる「グローバルビレッジ」は日本語禁止エリアとなり、留学生も交えて英語でコミュニケーションを行う場を提供しています。また、グローバルビレッジでは、海外放送の視聴ができる環境を提供し、留学コーディネーター／留学アシスタントを配置するなどのサポート体制を整えています。



「海外放送の視聴」

ラーニング・コモンズでは、BBC や CNN を含めた世界約 170 種類の海外放送の視聴が可能な環境、空間を提供しています。

「留学コーディネーター／留学アシスタント」

留学に関する豊富な知識をもった留学コーディネーターとそのサポート役として従事する留学アシスタントによる留学準備段階から留学後に至るまでの個別相談受付体制を整え、ワンストップサービスを提供、2013 (H25) 年度の実績として延べ約 1,400 名の学生からの留学に関する相談に対応しました。

アカデミック・インストラクター／ラーニング・アシスタント

ラーニング・コモンズの「アカデミックサポートエリア」には、アカデミック・インストラクターや語学能力の高い大学院生のラーニング・アシスタントが常駐し、プレゼンテーションの構成法やレジュメの作り方を教える等、様々な学習支援を行っています。

産業人材の育成に関する具体的な取組



正課科目「キャリア形成とインターンシップ」に海外コースを 2014 (H26) 年度から新設、異なる価値観を理解し受容可能な能力を備えた新しい価値を創造できる人材の育成を目指しています。事前講座ではインターンシップの意義や姿勢、業界や企業に関して学び、振り返りのための事後講座も行い、2014 (H26) 年度は 19 名が参加しました。学部独自インターンシップ科目は今年度、グローバル地域文化学部での複数コース提供や、構想時には予定していなかった理工学部でも試行しました。2015 (H27) 年度からは、企業や現地 OB 組織の協力を得て、新たに生命医科学部がドイツにおける海外インターンシップ科目を開設します。また、海外で働くことをキーワードに学部横断的に実施する「グローバルキャリアフェア」を開催、グローバル企業によるパネルディスカッションや「国際機関で働く」をテーマとした講演会、グローバル人材対象の企業セミナーや海外インターンシップ説明会や TOEFL、IELTS 説明会など幅広いプログラムを網羅して、学生が多角的に集中して考える機会を提供しています。

✈ 教職員のグローバル化のための取組

英語で授業を行う日本人教員への支援策としては、2012 (H24) 年度から年に 1 回（両校地で各 2 日間実施）、英語による教授法を学ぶための FD 研修を実施しています。職員対象には、新たに入社前研修として、語学能力向上のための通信教育を利用した語学研修を義務付け、2013 (H25) 年度は 11 名が受講しました。また、既存の研修制度に加え、語学の資格認定試験の受験促進を目的に語学試験受験料の補助制度も新たに設けました。その他、大学コンソーシアム京都開催の教職員対象英語スキルアップ研修なども積極的に活用、研修制度の一環として推奨しています。



林 以知郎
国際連携推進機構
国際化推進室長

Go Global Japan に採択されて

同志社は 2015 (H27) 年、創立 140 周年を迎えます。創立者新島襄が国禁を犯して渡航した幕末からのこの一世ครึ่งの月日は、世界にとってもわが国にとっても、地球上の距離が縮小し境界が意味を持たなくなっていくグローバル化の過程でもありました。この言葉が人間の選択を越えた必然的な過程であるかに響くからでしょうか、昨今ではグローバルティという言葉で、今日の世界をそれが立ち至った状態として捉えることもあります。グローバルティという言葉で世界を眺め返したならば、そこには解決されねばならない問題や痛みもまた見えてきます。同志社は創立時より、国際主義、キリスト教主義、自由主義の理念のもとに良心教育の場であることを目指してきました。いわゆる G30 事業や中間地点に至りました Go Global Japan 支援事業においても、本学は異文化理解の上に立った他者への寛容としなやかな実践力を育むリベラルアーツ教育を基盤として、日本人学生および外国人留学生の教育に取組んでまいりました。グローバルな世界に生きる他者への共感を行動と実践に結んでいく、「良心を手腕に運用する」人物の育成を同志社大学は担い続けていきたい、との思いを新たにいたしております。

発行：同志社大学国際化推進室 TEL075-251-3300 / FAX075-251-3303
https://www.doshisha.ac.jp E-mail: ji-gplus@mail.doshisha.ac.jp
2015 年 2 月



スーパーグローバル大学等事業

経済社会の発展を牽引する グローバル人材育成支援 (GGJ)* 同志社大学の取組 ✈

*「グローバル人材育成推進事業」は、2014 (H26) 年度より「スーパーグローバル大学等事業」の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」(Go Global Japan) として組み替えられました。

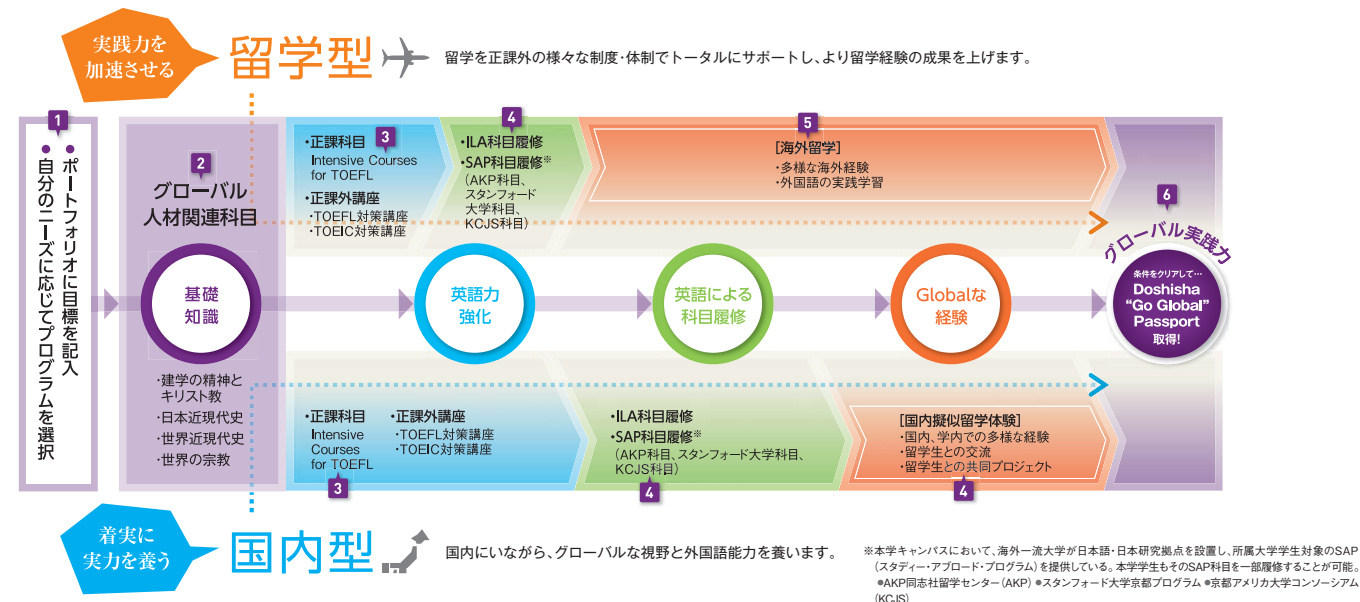
構想の目的・育成するグローバル人材像

本学は、建学の精神である「良心教育」を実現するため、教育理念として「キリスト教主義」、「自由主義」並びに「国際主義」を掲げています。高度な外国語運用能力を基礎的資質としつつも、キリスト教の徳育に基づき、自由でのびやかな進取の気性に溢れ、「良心を手腕に運用する」ことのできる、「考動する」グローバル人材 (Global Competence を有する人材) を輩出することを目的としています。

構想の概要

本構想では、有機的に連携した 2 つの教育プログラムである、留学を含む教育実践取組の「留学型」と、国内にしながらグローバル人材と成り得る教育を実践する取組の「国内型」を設定します。最終年度には「留学型」1,800 名、「国内型」1,200 名のグローバル人材を育成できる環境・プログラムを創出し、リベラル・アーツ教育を基盤とした教育等の取組の実施によって国内大学のグローバル化を牽引します。

「留学型」「国内型」2 つの独自プログラム



1 “Go Global” ポートフォリオ

学生一人ひとりの自己成長を促し、外国語運用能力の向上、人間的成長などを含めた自己達成目標を客観的に実感できるツールです。入学時に、修得したい能力や留学の目標などを記入し、具体的なロードマップを作成。その後、留学への参加・履修状況や成果を蓄積し、目に見える形で成長を実感できます。

2 グローバル人材関連科目

世界や日本の歴史、文化、宗教などの基礎知識は、異なるバックグラウンドを持つ人々とコミュニケーションを図る上で必要不可欠なものです。本学は「グローバル人材関連科目」を定め、学生の語学力だけでなく幅広い教養を養います。

3 Intensive Courses for TOEFL

正課科目「Intensive Courses for TOEFL」はスコア向上を目指す「Practice」と、留学先の大学の授業を想定して学習シミュレーションを行う「Tutorial」の 2 つのクラスで構成されており、グローバル人材として必要な英語力の養成を行っています。

4 学内でのグローバル学習と経験

本学のキャンパス内に拠点を置く AKP、KCJS などの講義を現地からの学生とともに受講する科目や、英語で学位（学士課程）取得可能な「国際教育インスティテュート (ILA)」の講義を留学生とともに受講する科目の履修により、同志社大学のキャンパスにしながら、疑似留学体験を得られます。

5 留学プログラム

ラーニング・コモンズに留学コーディネーター、留学アシスタントを配置、留学準備段階から留学後に至るまでの個別相談受付体制を整え、ワンストップサービスを提供しています。本学で用意している留学プログラムは期間や留学先も様々で、学生の関心や目的に合わせて最適なプログラムを選択することが可能です。短期のサマー / スプリングプログラムと中期のセメスタープログラムは参加することで単位が取得でき、長期の派遣留学については、留学先大学で取得した単位を本学の卒業単位として認定申請することができます。

6 Doshisha “Go Global” Passport

同志社大学の Go Global Japan プログラムを通して、グローバル人材力の条件を満たすと認められた学生には、「Doshisha “Go Global” Passport」を授与します。同志社大学卒業生として、グローバルな視点で活躍するために必要な基礎知識、外国語力、実践力について、一定の基準を満たした証となります。

※本学キャンパスにおいて、海外一流大学が日本語・日本研究拠点を設置し、所属大学生対象のSAP (スタディー・アブロード・プログラム) を提供している。本学学生もそのSAP科目を一部履修することが可能。
※AKP同志社留学センター (AKP) ※スタンフォード大学京都プログラム ※京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS)

✈ カリキュラムの充実・豊富化

Intensive Courses for TOEFL

正課科目として集中語学科目「Intensive Courses for TOEFL」を設置。スペシャリストの専任教員が担当し、TOEFL ITP テストで求められる Listening・Grammar・Reading の訓練を行う「Practice」と留学先での学習シミュレーションを通して TOEFL iBT のスキル習得を目指す「Tutorial」の2つのクラスで構成されています。「I.C.T」全クラス総定員は2013（H25）年度 360 名から2014（H26）年度は 740 名と倍増させています。また、I.C.T 担当教員が効果的な学習方法を紹介する「TOEFL セミナー」や夏期休暇中に「TOEFL 試験直前特別講座」を実施するなど、正課・正課外を問わず語学能力向上を図っています。今後、I.C.T を総定員 1,000 名程度まで拡充するとともに、2014（H26）年度から段階的に開始している入学時プレイスメントテストを2016（H28）年度には全学部対象に完成させ、習熟度別英語学習や、より上級な語学プログラムへの履修指導等、連続性を持った語学プログラムの整備を進めています。

2013（H25）年度受講生の声

入学前から「大学生になったら留学したい」と考えていましたが、TOEFL は受けたことがありませんでした。そこで、入学してすぐ「Intensive Courses for TOEFL」のことで知り、受講しました。授業では TOEFL に関する情報を得られたのはもちろん、留学について話せる友達や相談に乗ってくださる先生に出会うこともできました。更に、英語でのプレゼンテーションや文章の書き方など TOEFL のテスト以外でも役立つようなことも学べ、楽しんで授業を受けることができました。周りの受講生の頑張っている姿も励みになりましたね。今後も、目標である留学ができるよう、TOEFL スコア向上のために頑張ろうと思います。

小椋 裕美子さん
商学部 1 年次生（取材時）



SAP 科目履修

本学キャンパス内に拠点を置く AKP、KCJS などの SAP センターの講義は日本人学生にも一部開放され、疑似留学体験の場として活用されている他、プログラム参加留学生と日本人学生の間でランゲージエクスチェンジなどの交流が促進されグローバルな学修環境の創出に大きく寄与しています。

ILA 科目履修

ILA の授業は、人文・社会科学系 6 学部（文・社会・法・経済・商・政策）の「国際専修コース」生も履修しており、留学生とともに欧米スタイルで学んでいます。国際専修コース生の登録者数は2012（H24）年度 95 名、2013（H25）年度 183 名、そして本年度 298 名と年々、増加しています。

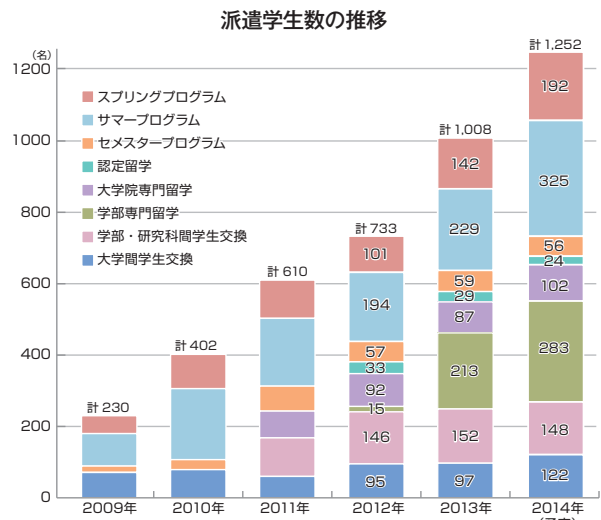
全学共通教養教育科目

本学の建学の精神である「良心教育」を、「キリスト教主義」「自由主義（自治自立の精神）」「国際主義」という三つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら現代において展開しており、幅広い学問分野にわたり、充実した科目を開設しています。

留学プログラムの拡充・海外で学ぶ学生数の拡大

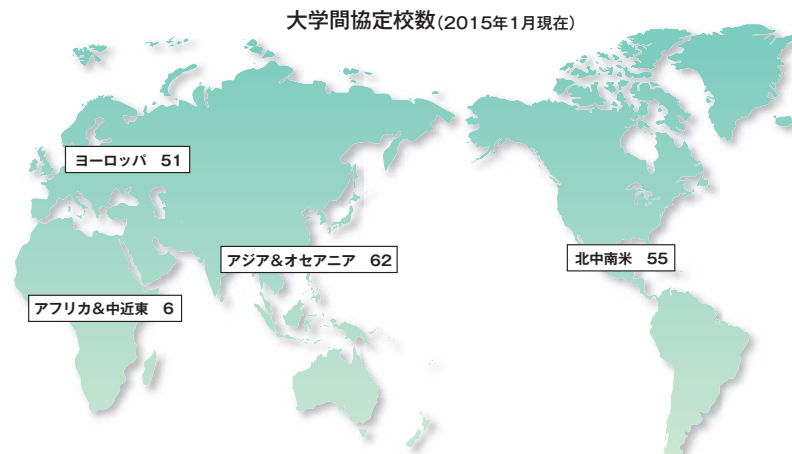
本学では多種多様な留学プログラムを全学生対象に用意しており、夏期または春期休暇中に2週間から4週間程度の語学研修と海外体験を行うサマー／スプリングプログラム、秋学期の1セメスターをかけて英語力を強化するセメスタープログラム、協定校へ半年から1年間留学する派遣留学制度などがあります。サマー／スプリングプログラム、セメスタープログラムの語学研修プログラムは、2012（H24）年度22本、2013（H25）年度26本、2014（H26）年度32本と着実に新たな留学プログラムを開発し、それに伴い、2012（H24）年度733名だった海外への派遣学生数は2013（H25）年度1,008名と増加、2014（H26）年度は1,252名を見込んでおり、昨年度を超える成果になると考えています。

その他、商学部、文化情報学部、法学部で提供している学部独自の留学プログラムや、他にも学部独自のセメスタープログラムや海外フィールドワークなど、各学部における専門教育に沿ったプログラムや科目の開発・提供も進んでおり、今後更なる留学プログラムの開発を進めるとともに、各学部における専門型留学プログラムや海外インターンシップ科目の充実を図ります。



海外事務所・教育研究拠点設置

国際化推進の取組の迅速かつ効果的な発展のため海外の複数地域に海外事務所・教育研究拠点を設置、現在は、7つの海外事務所（台北、ロンドン、ハノイ、北京、上海、ソウル、イスタンブール）、3つの教育研究拠点（マレーシア、アメリカ、イギリス（ケンブリッジ））を構えています。新たな協定校開拓や本学在学生の留学時の支援、留学生獲得のための様々な取組などを行っています。



✈ 日本人学生 / 外国人留学生の交流機会を創出

SIED (Student Staff for Intercultural Events at Doshisha)

学生が主体となり国際交流イベントを企画・実施する国際センターの学生組織 SIED は、2013（H25）年10月より活動を開始し、現在は今出川・京田辺校地合わせて20名程度の学生スタッフが、日本人学生と外国人留学生の相互交流促進を目指して、様々な企画を開催、本学のグローバル化を推進しています。2014（H26）年（12月現在）の参加者数は1,542名（内訳：日本人学生885名、留学生657名）です。

2014（H26）年度実施企画例

オープン・ラウンジ、国際交流お花見、Lunch Talk（各言語で毎月数回）、Book Club、Language Exchange Event、Intercultural Presentation、Global Sushi、World Kitchen、防災体験、座禅体験 etc.
 <https://www.doshisha.ac.jp/international/communication/event.html>

国際交流ラウンジ

今出川・京田辺の両校地に国際交流ラウンジを設置しており、日本人学生と外国人留学生が互いの文化を知り、交流を深める場として活用されています。



スタディー・アブロード・プログラム拠点（SAP センター）の活用

海外有力大学がスタディー・アブロード・プログラムの受入および日本語・日本教育研究拠点として SAP センターを本学キャンパス内に設置しています。これらのセンターが提供する授業は一部日本人学生にも開放されています。また、各 SAP センター所長は GGJ 外部評価委員として毎年度本事業の進捗状況等の検証・評価を行っています。

- ・AKP 同志社留学生センター (AKP)*¹
- ・チュービンゲン大学同志社日本研究センター (TUB)
- ・スタンフォード大学京都プログラム (Stanford Program in Kyoto, Bing Overseas Studies Program, Stanford University)
- ・京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS)*²

*¹ アメリカに本部を置く日本留学プログラム運営機関 Associated Kyoto Program。アーモスト大学、スミス大学等、14校の名門リベラルアーツカレッジが加盟する。

*² アメリカ 14 大学連盟の留学プログラム。ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガン大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学、イエール大学、ヴァージニア大学が参加。

Doshisha Global Archives

キャンパス内に拠点を置く海外有力大学の SAP センターが所管する文献やデジタル資料を1カ所にまとめた「Doshisha Global Archives」では、大学図書館のシステムとも連動した検索機能や、読書やPC学習のためのスペースなども備えられ、SAP センター生だけでなくグローバルに学びたい本学学生にも開かれた空間として活用されています。

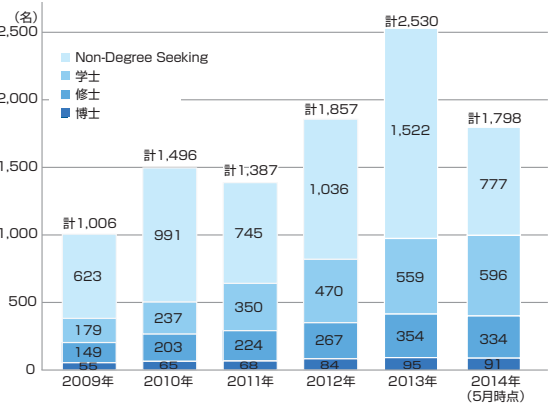


国際教育インスティテュート (ILA)

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30）」により新設した英語による学士課程プログラム「国際教育インスティテュート (ILA)」はリベラルアーツ教育を英語で行う組織です。社会・文化・経済・ビジネス・法律・政治・政策・国際協力などの分野において、国際的に活躍するために必要な幅広い学際的教養および国際的コミュニケーションの技能を身につけた人物の育成を目的としています。

現在、帰国子女、国内インターナショナルスクール出身者をはじめ、異なる文化体験を持つ多くの日本人学生も英語で授業を受けています。

外国人留学生数の推移



*留学生数には短期受入プログラムなどによる学位取得を目的としない留学生も含む。